

問題



この漫画のタイトルは1〜5のうちどれだと思いますか？

○印を付けて下さい

1. 一期一会 いちごいちえ
2. 一蓮托生 いちれんたくしょう
3. 一触即発 いっしょくそくはつ
4. 一知半解 いっちはんかい
5. 一刀両断 いっとうりょうだん

1. 夫婦喧嘩は犬も食わぬ ふうふけんか いぬもくわぬ
2. 犬猿の仲 けんげん なか
3. 喧嘩両成敗 けんかりょうせいばい
4. 喧嘩に負けて妻の面を張る けんか まつめをつらへ
5. 水掛け論 みずかろん

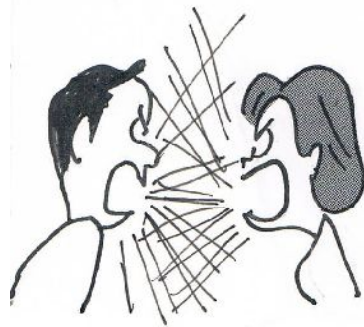


問題

水掛け論



水掛け論



水掛け論になる原因は二つある。
ひとつは、証拠がない場合
「あなたは浮気してるでしょう」
「浮気なんてしてないよ」

「あたしの感に狂いはないのよ」
「何を言ってるんだよ、おまえは」
「誤魔化されないわよ。どこの女なの」
「浮気なんかしてないって」

「してるわよ」
「してないよ」
「してる」
「してる・してない」は果てしなく延々とつづく。
もうひとつは、価値観の違い。
「ぼくは反対だよ」
「何ですか？」
「女は年頃になったら結婚して、家庭の主婦になるべきだよ」
「結婚だけが人生じゃないでしょう」
「女の幸せは子どもを産んで、明るい家庭を築くのがいちばんなんだよ」
「女だって自立して、男に頼らないで生きていくべきよ」
「ぼくは、この子の幸せを願って言っているんだよ」
「私だって、この子のためを思って」
「まあ、まあ、ふたりとも冷静になって、まだこの子は生まれて一週間しか経っていないんだから」
と、祖父が仲裁に入った。
水をぶっかけても火が消えないので、水掛け論という気もするが、水をかけて冷静になれという意味もあるような気がしません？
(もともと、お百姓さんが自分の田に水を引き込もうと争ったことからこのこと)。

水掛け論

とわかぎ笑の仙

ミドリ先生は黒板に「立派な女性たち」と書いて、自慢気に話し始めた。
 「二歳のときに盲聾啞（もうろうあ・目が見

いっ
 ち
 はん
 かい

えなく、耳が聞こえず、しゃべれない）三重
 苦を背負いながら、努力して大学を卒業して、
 身体障害者の援助に尽くした偉大な女性はだ



れですか？」
 手をあげる子はいないので、先生は黒板に
 マザー・テレサと書いた。
 「ヘレン・ケラーだよ」と級長の田中君が舌
 打ちする。
 つづいて、
 「日本にも素晴らしい女性がいましたね。和
 漢の学問に通じ、三十六歌仙のひとつに選ば
 れた『枕草子』の作者。平安時代の女流作家
 で名前は・・・」
 と言つて、柴式部と黒板に書いた。
 「清少納言だよ」と、また田中君は舌打ちし
 た。
 生かじりで、知識が十分に自分のものにな
 っていないことを一知半解という。
 サンサンと太陽がいつばいの空港に降り立
 ったその男は、タクシーを止めて運転手に「ウ
 イーンに行ってくれ」と言った。運転手は怪
 訝な顔で「ウイーン？」と肩を挙げて両手を
 広げる外人特有のポーズで訊き返した。「つた
 く、知らねえのか」と男は舌打ちして、「音楽
 の都だよ」とチェロを弾くポーズをとり、論
 すように「ハイドン、モーツアルト、ベート
 ーベン」と言ったが、運転手には通じない。
 その男は、オーストリアとオーストラリアを
 間違えているのである。

とわかぎ笑の仙